

心の成長

群馬県

高崎魁洗館長井剣道場

小学6年 松本優月

「私は、何のために試合に出ているの？」

新型コロナの苦難を越え、私たちは何度も稽古や試合ができるようになってきました。試合のたびに私は「絶対に勝つ！」と思って挑んでいますが、最近は何度も負けて、悔しい気持ちでいます。私は四歳で剣道を始め、八年間修業しています。ですが今は、後から始めた仲間に何度も負けています。悔しくて情けなくて、涙が止まりません。「どうして？誰よりも長く、稽古を頑張ってきたのに…」今年私は、そればかり考えていました。

幼い頃、私は何度も市で優勝し、嬉しくてもっと強くなろうと思っていました。そんな私に先生は、「ゆづき。この先何があっても満足してはだめだ。もっと、もっと、もっと上手くなるぞ！と思いつけなさい。」とおっしゃいました。数年後、ライバルも強くなり、負けることが増えてきました。しかし、私はそこで「まだ大丈夫」と自分に甘え、できないことや弱点に向き合わずにいました。八年間、周りが成長する中で、私の心と剣道は全く成長していませんでした。

素直でない私。一生懸命ご指導くださる先生に失礼なことをした私。こんな自分を変えたい！今の自分から抜け出したい！私は今の気持ちを先生方に話しました。すると館長先生は、「優月は剣道を通してどう成長したいのか。」と聞きながら、「剣道には、勝って反省、負けて感謝という教えがある。どちらも心の成長につながる大切なことだよ。」と教えてくださいました。勝っても満足しないで反省し、負けた時には自分の弱点に気づかせてもらったことに感謝する。そうすれば、勝っても負けても「自分の心が強くなり、大きな人間になれる。」私はそれが全くできていないことを知りました。今の私は「勝って安心。負けてつらい。」と思っています。これでは、勝っても負けても自分が小さくなります。「何のために試合に出ているのか。」私が出した答えは「心を弱くするため」だったのです。

館長先生が、東北での大きな大会に招待され、出場の機会を私たちに下さいました。行きのバスの中で、私が生まれる前に東日本大震災があり、多くの命や家や幸せが失われてしまったことを考えていました。しかし、試合会場に着いて、とても立派な体育館や、選手の多さにびっくりしました。どの選手も保護者もとても楽しそうで、試合が始まると、さらに生き生きとした動きをします。大変な苦労や困難があったはずなのに…。私たちも負けていられない！私たちは大きな声と気迫で、力を合わせて戦いました。結果は一本差の本数負けでしたが、先生は「いい試合だったよ。」と優しく頭をポンポンとしてほめてくださいました。相手のチームが「遠くからきてくれてありがとう。」と挨拶をしてくれて、私たちも感謝を込めて深く礼をしました。

幼い頃何度も優勝して有頂天になっていた私は、失敗や他の人が強くなることを怖がっていました。先生方や他の道場の人たちのおかげで稽古や試合ができて、成長のチャンスがもらえていることや、それに感謝することの大切さを私は教わっています。「何のために試合をするのか。」その答えに、「心の強い大きな人間になるためです。」と言えるように修業をしています。何をすればいいだろうと思い、最初に気づいたのが繰り返しでした。繰り返しは剣道のすべての基本です。先生方や強い選手の繰り返しはとて大きくてきれいです。「強く大きな人間になるためには、大きな気持ちと振りで打つ。」と、最初から教わっていました。それを信じずに小さな人間になってしまった私を断ち切るために、私は今、大きな声で、もっと、もっとと思って振っています。この先もずっと、私は先生方や見守ってくれる家族を信じて、仲間と力を合わせ努力し、自信をもって試合をします。そして反省と感謝を繰り返して心も剣道も強く成長し、活躍することで、自分を支えてくれる皆さんに「ありがとう」と伝えたいです。